

[公財]いわて産業振興センター広報誌

産業情報

INDUSTRY INFORMATION IWATE

いわて

2025/10・11 Vol.237

★キラリ輝く★

岩手の
企業

花巻市

株式会社小彌太

郷土芸能を持続可能に 老舗染物屋の新規事業



各部事業紹介…6・7

次世代自動車業界動向セミナー…8



花巻市愛宕町にある染物工場。ここで手捺染の作業が行われる。



郷土芸能事業「雷太」による3Dプリンターで作った鹿頭とオリジナルの衣装。

郷土芸能を持続可能に 老舗染物屋の新規事業

花巻の老舗染物屋・株式会社小彌太。祭りの半纏や旗・幕、あるいは選挙にまつわる商品といった染物を扱う会社が、新たに「郷土芸能事業『雷太』」を立ち上げた。染物屋の枠にとらわれない新たな発想が今、後継者が不足している郷土芸能の救世主になろうとしている。

花巻市

株式会社小彌太



創業244年 花巻の老舗染物屋

秋には「花巻まつり」で盛り上がる花巻市愛宕町。ここに、天明元年（1781）創業の老舗染物屋・株式会社小彌太がある。現在の代表取締役小瀬川弘樹さんは9代目になる。江戸時代は引き染めという技法で染物をしてきたが、8代目の頃からシルクスクリーンによる手捺染（てなっせん）を導入し、祭りで使う

半纏や神社の旗・幕、神楽の幕など、地域に根差した染物を続けながら、選挙関連の染物を始め、シェアを拡大した。今もなお、選挙のシーズンになるとたくさんの仕事が舞い込む。現在は、時代のニーズに合わせて、**設備貸与制度**を活用し大判のプリンターを導入。Jリーグの応援旗や、校舎などに掲げる風雨に強い素材「ターポリン」の大型の幕などにも対応している。

▶詳細は5ページ **この事業を活用しました**

新規事業の立ち上げ 郷土芸能事業「雷太」

かつては、祭りの半纏や手拭いなど、型1つに対して同じものを量産することが多かったが、時代の変化とともに、仕事は多様化。一品一葉の仕事が増え、近年は一点ものの受注も少なくない。選挙がある年とない年とでは業績に変動があるのが現状だ。そこで打開策として2024年に新規事業「郷土芸能事業」を立ち上

- 1 古い鹿頭をトレースし、3Dプリンターで復刻。明治期に作られた鹿頭もある。
- 2 選挙で使う「候補者表示物」。選挙関連の染物の他に選挙ポスター掲示板も作っている。



げた。かねてより幕や幟（のぼり）、半纏などの染物を提供してきた同社。祭りや神楽などには縁があった。しかし、染物屋はあくまでも裏方。注文を受けて染物を納品することはあったが郷土芸能に詳しいわけではなかった。

花巻には郷土芸能「鹿（しし）踊り」がある。衣装の一部を染めて納品していたため取引はあったが他に手伝えることはないか。社長の小瀬川さんと息子であり営業課長の雄太さんが検討を重ね、そして鹿踊りの衣装の中でも、頭にかぶる「鹿頭（しがしら）」がだいぶ古くなっている

ことに気づいた。

新しい技術が 伝統芸能を蘇らせる

「鹿頭は木を彫刻して作られているのですが、世代交代をされていて修復を誰に頼んだらいいのかわからなくなっていました。そこで、染物屋の枠にとらわれず、鹿頭の再現に取り組んでみようと思いました」そう話すのは雄太さん。3Dプリンターを導入し、試行錯誤しながら鹿頭を作った。樹脂で作られた鹿頭は、着色をすればほとんど木で作られた

ものと変わらない。納品した郷土芸能の団体からの評判も上々だ。郷土芸能を勉強するため、踊りも練習し始めた雄太さん。祭りでは裏方に徹してきた雄太さんだが、いつしか鹿踊りの舞手になっていた。

自ら舞手となり 郷土芸能に浸る

「踊ってみないとわからないことがたくさんありました」と雄太さん。衣装をつける時、手拭いをたくさん使うこと、衣装は洗えない部分もあること、踊っている最中に鹿頭がず

れること、など、改良点がたくさん見つかった。布製品なら商機はある。ところが次なる郷土芸能の課題は「わらじ」だった。製造していた職人が作るのをやめてしまい、鹿踊りの舞手たちは皆、類似商品を探していたのだ。一度布でわらじを試作したが、耐久性がなく滑りやすい。そこで社員が、わらじの作り方を修業。会社の2階の作業場で「ゴムわらじ」の再現に成功した。「ゴムわらじ」は「さんさ踊り」「鬼剣舞」など、鹿踊り



3



4

3 郷土芸能をデザインしたステッカーやバッジが大好評。PR用にうちわも作成した。
4 2階の工房。選挙ポスター掲示板の端材を再利用し、社内のラックなどを自作する。「ゴムわらじ」の製造も行う。

以外の郷土芸能の団体からも注文が入った。

郷土芸能を持続可能に

2024年9月に立ち上げた郷土芸能事業「雷太」は、**いわて希望応援ファンド地域活性化支援事業**に採択
▶詳細は5ページ **この事業を活用しました**
され、花巻まつりでうちわを配布しPR活動を行なった。外部のデザイナーによる華麗なデザインがとても

好評だ。
同社では「鹿踊採用」を始めた。郷土芸能に取り組む人と一緒に岩手を盛り上げようという取り組みで、すでに採用実績もでている。
染物屋の枠にとらわれず、新事業の取り組みで郷土芸能を持続可能にする株式会社小彌太。「郷土芸能と言ったら小彌太」そう言われる日は近い。



岩手県の郷土芸能「鹿踊り」は、県南にいくつもの団体があり、鹿頭や衣装、ささら、太鼓など、各団体に伝わるものを代々使用してきた。時代が変わり、木彫りで鹿頭を作る職人の後継者も減っているのが現実だった。株式会社小彌太の郷土芸能事業「雷太」では、最新のテクノロジー「3Dプリンター」を使って、鹿頭の復元を試みた。まずは、元の鹿頭を3Dスキャン。破損・欠損している部分をデータ上で修復し、3Dプリンターで鹿頭を復元する。素材は樹脂。着色を施すと、木で作った鹿頭と区別がつかないほどである。メディアで取り上げられたことで、県内のさまざまな団体から注文が舞い込んでいる。
「ゴムわらじ」の製造も、郷土芸能事業の一つ。手先が器用な社員が試行錯誤しながら再現・開発した商品だ。初めは布で作ったが、耐久性や踊りやすさを考えるとやはりゴ



5



6

5 再現・開発した「ゴムわらじ」。
6 3Dプリンターで復元した鹿頭。

ム製に落ち着いた。表には衝撃を吸収するクッションソールを貼り、機能性を兼ね備えている。鹿踊りだけでなく、「鬼剣舞」「さんさ踊り」「神楽」などからも注文が入る。染め物の枠にとらわれず、新分野にも果敢に挑戦し、郷土芸能に新風を巻き起こしている。



代表メッセージ 代表取締役社長 **小瀬川 弘樹さん**

地域に根付いた染物屋として、これまでも神社や祭りの半纏、幟(のぼり)、幕などを染めてきましたが、8代目の頃から始めた選挙関連の染物のおかげで「選挙と言ったら小彌太」と言われるようになりました。郷土芸能事業を始めて1年が経ちますが、鹿頭の復刻の他にも古くなった道具の復刻を頼まれるなど、反応も上々です。これからも染物という枠にとらわれず、世の中の変化に対応しながら、お客様の要望に応え、認められる会社として歩みを進めていきたいと思っています。

2031年に創業250年を迎えます。地元に根付く染物屋として、2031年までには花巻まつりで神輿を出したいと考えています。

代表 Profile

1967年、花巻市生まれ。明治大学商学部卒。2002年代表取締役社長。2024年郷土芸能事業「雷太」開始。

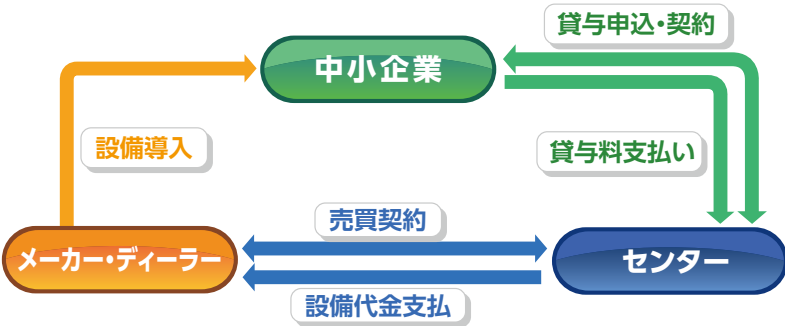
企業データ CORPORATE DATA	
会社名	株式会社小彌太
所在地	【本社・工場】 岩手県花巻市愛宕町3番12号
TEL	0198(22)3066
代表者	小瀬川 弘樹
従業員数	19名
事業内容	染色業
URL	https://www.koyata.co.jp/

沿革 HISTORY	
江戸 天明元年	創業。初代が現在地に業を起す。以来、代々名入れ染色を業とする。
昭和30年	選挙部門設立。 東北・北海道唯一の専門メーカーとして、公営ポスター掲示板・選挙七つ道具等を制作。
昭和35年	株式会社小弥太染工場として法人化。
昭和59年	工業写真部門設立。県内初の本格的設備による、精密写真第二原図制作。
昭和60年	株式会社小彌太 社名変更。
平成12年	サイン事業部設立。東北屈指の設備により、多岐にわたるグラフィック・看板業務に対応。
平成14年	小瀬川小弥太代表取締役会長 小瀬川弘樹代表取締役社長 就任
平成17年	エクスラン事業開始。
平成24年	ダイレクトプリント事業開始。ポスター掲示板を杉合板で制作開始。
令和3年	昇華転写プリンター導入。
令和5年	3Dプリンター・3Dスキャナー導入。
令和6年	郷土芸能事業「雷太」開始。

この事業を活用しました

設備貸与制度

岩手県内の中小企業の皆様が必要とする機械・設備をセンターが商社・メーカーから直接購入し、長期・低利で貸与(割賦販売)する公的制度です。貸与の条件はお問い合わせのURLからご確認ください。設備の更新を検討されている事業者様はお気軽にお問い合わせください。



📞 お問い合わせ 総務金融部 金融支援担当 TEL:019-631-3821
URL <https://www.joho-iwate.or.jp/setsubi>

いわて希望応援ファンド地域活性化支援事業

国の機関や県、金融機関からの出捐により、「いわて希望応援ファンド」を造成し、その運用収入を主な財源として、県内企業が行う新商品開発や販路開拓等の新たな取組へ公募助成を行っています。令和7年度は15事業者が採択となりました。助成金の交付のほか、専門家の派遣指導などを通じて、企業の新事業展開を継続して支援します。

📞 お問い合わせ 産業支援部 地域産業担当 TEL:019-631-3823



各部事業紹介 事業者様の取り組みをサポートします。

産業支援部

「カーボンプレジット」活用促進セミナーのご案内～個別相談会も同時開催～

企業のGX(グリーントランスフォーメーション・脱炭素)の取組みを支援するためのセミナーを盛岡・北上の2会場で開催しますので、奮ってご参加ください。

J-クレジットを含めたカーボンプレジット全般の利活用の仕方や制度概要など、最新の動向・情報をお伝えします。

お申込みは、当センターHP「センターからのお知らせ」をご覧ください。

■北上会場

日時: 11月18日(火) 14:00～16:00

場所: ANN Holiday Inn [旧ホテルシティアプラザ北上]
(北上市川岸一丁目14-1)

■盛岡会場

日時: 12月2日(火) 14:00～16:00

場所: アートホテル盛岡
(盛岡市大通3丁目3-18)

■お問い合わせ■

産業人材育成担当 TEL.019-631-3824
E-mail: seisan@joho-iwate.or.jp

産業支援部

「いわて産業人材奨学金返還支援制度」のご案内

「いわて」で暮らし「いわて」で働きたい方の奨学金返還を最大250万円助成します!

岩手県では、将来のものづくり産業等を担うリーダーとなる人材の確保・定着を促進するため、学生が大学等を卒業後、U・Iターンし、県内認定企業に一定期間就業した場合に、奨学金の返還支援を行っています。現在、2次募集を実施しております。詳細は当センターホームページの奨学金返還事業のページ及びX(旧Twitter)をご覧ください。

また、認定企業(就職先となる企業)の募集も実施しております。こちらは、岩手県商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室(019-629-5552)への申込みが必要です。自社の採用活動ツールとしてご検討ください。



センター奨学金



X(旧Twitter)



岩手県奨学金

■お問い合わせ■

産業人材育成担当 TEL.019-631-3824

産業支援部

「第6回記念 岩手県の観光と物産展」の開催

8月27日から6日間、名古屋名鉄百貨店において、「第6回記念 岩手県の観光と物産展」を開催しました。今年度は、食品・酒類・工芸品など県内55の事業者が出展し、自慢の逸品を出展しました。

岩手県の豊かな自然が育んだ食の特産品や、匠の技が光る工芸品を展開したほか、会期初日には、ミスさんさ踊り、ミス太鼓、ミス笛による盛岡さんさ踊りの演舞披露を行い、会場内は多くの来店客で賑わいました。

今後も全国のお客様や岩手ゆかりの方々に岩手県が誇る食と工芸の魅力をアピールできるよう取り組んでまいります。



■お問い合わせ■

地域産業担当 TEL.019-631-3823

産業支援部

東京インターナショナル・ギフト・ショーへ出展

当センターが事務局を務めるいわての物産展等実行委員会では、岩手県の伝統工芸・地場産業事業者が製造する優れた商品の販路拡大を支援するため、東京インターナショナル・ギフト・ショーに岩手県共同出展ブースを設置しました。

来場したバイヤーから商品に対する意見やニーズを聞くことができ、今後の商品開発の参考となった他、本展示会出展を契機とした、今後の取引拡大が期待されます。



■お問い合わせ■

地域産業担当 TEL.019-631-3823

産学連携部

海外出願支援事業 第3回公募について

当センターでは、岩手県内中小企業者等の海外展開支援の一環として、中小企業者等が外国への事業展開にあたり行う特許等の外国出願に要する経費の一部を補助することにより、中小企業者等による諸外国での戦略的な特許等の取得に向けた外国出願を促進することを目的として、本事業を実施しております。

令和7年度第3回公募を11月14日(金)まで実施中です。

【概要】

公募期間 令和7年9月8日(月)～11月14日(金) 16:00締切
補助対象者 原則として、日本国特許庁に対して特許、実用新案、意匠、または商標を出願済みで、本補助金の交付決定後、年度内に外国特許庁等へ、優先権を主張して同一内容の出願を行う予定があるもの。

補助対象経費 外国特許庁への出願料、国内・現地代理人費用、翻訳費等

補助率 1/2以内(補助金額には上限があります)
※詳しくはセンターWebサイトをご覧ください。
<https://www.joho-iwate.or.jp/fjpr>

■お問い合わせ■

産学連携部 TEL.019-631-3825

産学連携部

いわて分析技術セミナーのご案内

ICP発光分光分析、液体・イオン・ガスの各クロマトグラフィー分析による定性・定量分析方法と前処理法を学ぼう

当センターでは、岩手県工業技術センターと共催で、原材料成分の把握、新製品開発、研究など、幅広い分野で欠かせない「分析技術」に関するセミナーを開催いたします。本セミナーでは、定性・定量分析についての基礎から応用、精度、実例までを幅広く紹介いたします。

1日時 令和7年10月31日(金) 13:15～17:00

2場所 岩手県工業技術センター 大ホール
岩手県盛岡市北飯岡2-4-25

3共催 (公財)いわて産業振興センター、(地独)岩手県工業技術センター

4参加費 無料

5定員 60名

6申込方法 センターWebサイトから参加申込用紙をダウンロードしていただき、メールまたはFaxにてお申込み下さい。
(申込締切: 10月29日(水) 正午)
<https://www.joho-iwate.or.jp/news/14278>

■お問い合わせ■

産学連携部 TEL.019-631-3825

ものづくり振興部

「令和7年度 第1回いわて医療機器事業化研究会」を開催しました

8月26日(火)にアートホテル盛岡において、「令和7年度 第1回いわて医療機器事業化研究会」を開催しました。

研究会では、岩手県内企業の医療機器産業分野における新規参入、取引拡大、連携交流等に対する取組みを推進しています。今年度第1回の研究会は、医療機器メーカーのカーターテクノロジーズ(株)代表取締役社長の宅間沙織氏による「町工場から医療機器メーカーへ」と題した講演のほか、当センター医療機器事業化コーディネーターより医療機器産業参入に向けたマーケティングのポイントや海外進出事例について解説いただきました。

当センターでは研究会の活動として、医療現場のニーズに対するマッチング会や各種セミナーの開催、医療機器関連製品の事業化及び新規参入に向けた取組みを支援していますので、お気軽にお問い合わせください。



■お問い合わせ■

取引支援・産業集積担当 TEL.019-631-3822

ものづくり振興部

「次世代自動車業界動向セミナー」を開催しました

7月29日(火)に岩手県工業技術センターにおいて、「次世代自動車業界動向セミナー」を開催しました。

当センターでは、自動車の次世代化対応に向けた事業転換・新規参入を支援するため、相談窓口の設置、セミナー・実地研修の開催、専門家派遣事業等を実施しております。今回のセミナーでは、「次世代自動車に使われるセンサの見通しについて」、「3Dデジタルものづくりの必要性和活用事例について」と題して、2つのテーマについて講演を行いました。

本講演については、12月26日まで、オンデマンドで配信しておりますので、聴講希望の方は当センターホームページにアクセスいただき、お申込みをお願いいたします。下記QRコードからもお申込みいただけます。

CASE対応や次世代自動車部品製造への参入等にチャレンジしたい場合は、お気軽にお問い合わせください。



■お問い合わせ■

取引支援・産業集積担当 TEL.019-631-3822

自動車関連

製造業・サービス業の経営幹部向け

～次世代自動車チャレンジ支援事業～

オンデマンド配信

次世代自動車業界動向セミナー

セミナー動画をインターネット上で好きな時に何度でも
無料でご覧いただけます。



公開期間

令和7年8月20日

～

令和7年12月26日まで

本セミナーは令和7年7月29日に開催された次世代自動車業界動向セミナーのオンデマンド配信動画になります。

POINT

- ✓「車載センサ」を中心とした次世代自動車の業界動向がわかる
- ✓車づくりにおける3Dデジタルものづくり活用の必要性と活用事例がわかる

講演 1

次世代自動車に使われるセンサの見通しについて

講師 ㈱フォーイン 専務取締役 東 尚史 氏
(自動車産業専門調査研究会社フォーイン 調査部 部長)

講演 2

3Dデジタルものづくりの必要性と活用事例について

講師 JAMBE中小連携WGリーダー 青木 剛 氏
(本田技研工業株式会社 BEV完成車開発統括部
開発プロセス改革部 エキスパートエンジニア)

お申し込み方法

ホームページ (<https://iwatemobi.meti.go.jp/mibi/gvougai2025-2>)

または右記の二次元コードをお使いください。

※申込確認後、視聴URLをご連絡させていただきます。



主催 公益財団法人いわて産業振興センター

〒020-0857 盛岡市北飯岡2-4-26 岩手県先端科学技術研究センター2階

共催 地方独立行政法人岩手県工業技術センター

TEL 019-631-3822 平日 8:30～17:15

E-MAIL iwatemobi@iwatemobi.meti.go.jp

研修に関するお問合せ：ものづくり振興部 晴山、鈴木

【公財】いわて産業振興センター広報誌

産業情報 いわて

INDUSTRY INFORMATION IWATE

発行 公益財団法人 いわて産業振興センター

〒020-0857 盛岡市北飯岡2丁目4-26 (岩手県先端科学技術研究センター 1F・2F)

TEL 019-631-3820 [E-mail] joho@joho-iwate.or.jp

[URL] <https://www.joho-iwate.or.jp/>

発行日 令和7年10月24日 ■編集印刷 株式会社 吉田印刷



この冊子は地球に優しいベジタブルオイルインクを使用しています。